

第23回刈谷市障害者自立支援協議会議事録

日 時 平成27年4月22日（水）午後3時30分～午後5時

場 所 刈谷市役所 7階 大会議室A

委 員（敬称略）

<出席者>

愛知教育大学	都 築 繁 幸
医療法人成精会	石 黒 直 生(代理)
社会福祉法人ひかりの家	大 南 友 幸
社会福祉法人観寿々会	堤 勝 彦
NPO法人くるくる	鈴 木 規 正
刈谷商工会議所	河 内 利 夫
刈谷市身体障害者福祉協会	平 野 健 司
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	高 井 昇
刈谷手をつなぐ育成会	篠原 真由美
刈谷地区心身障害児者を守る会	鈴 木 小 枝
刈谷地域精神障害者家族会	長谷川 宏
刈谷市障害者支援センター	増 子 恵 子
刈谷市社会福祉協議会	神 谷 典 利
刈谷公共職業安定所	岡 田 将 男
刈谷児童相談センター	武 田 靖 志
衣浦東部保健所	杉 浦 小 百 合
愛知県立安城特別支援学校	都 築 正 徳
愛知県立ひいらぎ特別支援学校	小 林 智 子

<欠席者>

NPO法人パンドラの会	岡部 扶美子
刈谷市教育委員会	神谷 拓生

(事務局)

福祉健康部 部長	鈴 本 裕
福祉総務課 課長	近 藤 敦 人
〃 課長補佐	迫 将 一
〃 障害企画係長	山 岡 達 也
〃 主任主査	酒 井 武 士
〃 主事	松 本 直 希
〃 主事	鈴 木 玲 奈

開会

資料の確認

- ・ 次第
- ・ 刈谷市障害者自立支援協議会 委員名簿
- ・ 刈谷市障害者自立支援協議会 部会員名簿（案）
- ・ 刈谷市障害者自立支援協議会設置要綱
- ・ 資料1 平成27年度刈谷市障害者自立支援協議会イメージ図
- ・ 資料2-1 地域生活部会
- ・ 資料2-2 就労支援部会
- ・ 資料2-3 地域生活部会
- ・ 資料2-4 平成27年度刈谷市障害者自立支援協議会・部会開催スケジュール（案）
- ・ 刈谷市障害者計画・第4期刈谷市障害福祉計画（概要版）

委員紹介

事務局紹介

会長あいさつ

議題（1）平成27年度刈谷市障害者自立支援協議会及び部会の運営について

事務局 資料1および計画概要版により、計画の基本理念・施策の重点課題を確認し、今年度の協議会と部会の体制について説明するとともに、部会員名簿（案）により部会員の構成について説明

委員 計画の「施策の重点課題」の（5）に「避難所等における配慮」が記載されているが、この課題も地域生活部会で取り上げていくのか。

事務局 避難行動要支援者名簿を民生委員・児童委員の皆様提供するなど、地域への働きかけを行っており、危機管理課を含め市として課題に取り組んでいる。

委員 今年度の部会員名簿（案）を見ると、家族会や当事者団体等が減っているように思われるが、何か考えがあれば、説明して欲しい。

事務局 今年度の各部会の検討内容に沿って、部会員の構成を考えている。

委員 重点課題（6）に「障害のある人にとってのあらゆる障壁を取り除くための取組みを進めます。」とあるが、家族や当事者でないと実態がわからない部分もあると思う。その声を反映するためにも家族会や当事者団体が部会の構成員になっていたほうが良いと思い、発言した。

委員 地域生活部会は、今年度精神障害を取り上げるようだが、身体障害は取り上げないということか。

会長 今まで、いろいろな議論をしてきており、その経緯の中で、十分な議論をしてこなかった部分についても平行して取り上げていこうということではないか。

事務局 今まで、地域生活部会で障害のある方の地域移行について幅広く議論してきたが、どうしても議論の進んでいない部分があるということで、今回はテーマを絞らせていただいた。計画概要版5ページをご覧いただきたい。障害福祉サービスの地域移行支援、地域定着支援の平成24年度から26年度の利用実績がないため、部会で議論する必要があるのではないかと考え、今回のテーマを提案した。

委員 相談支援事業の実績がないというのはどういうことか。

事務局 相談支援事業の中の地域移行支援サービス、地域定着支援サービスの実績がないということで、一般相談の実績がないということではない。一般相談は、市や相談支援事業所等で受けている。

委員 相談支援事業の中にはいくつかの事業があり、こころ悠々でも行っている。生活に関する相談等を受ける一般相談、福祉サービスを利用するための計画作成に係る相談を受ける計画相談、また、今話が出ている地域移行支援、地域定着支援がある。他市のケースで地域移行支援にあたるものはあったが、市内での実績はない。一般相談、計画相談については、障害種別に関係なく多くの件数を受けている。

委員 地域移行、地域定着という事業が、今後本格的になってくることを見据えて事務局は部会のテーマにされたのではないかと思う。入所施設や精神病院

から地域移行するための受け皿の問題、地域移行を行う職員の問題等、ハードルは高いと思うが進めるべき課題だと思う。

委員 計画の重点課題の中で「障害児への支援の充実」や「専門性の確保と相談体制の確立」がある。この2つは相談支援部会に関連する課題となっているが、地域移行、地域定着に関して検討することも重要となる。

現在、市内で対応が困難な障害児に関するケースがあり、ひとつの事業所で解決できるような内容ではないので、幅広くネットワークを活用しながら対応しなければいけない。そのような事に対応し、地域移行を進めていくためにも、障害児支援の充実、専門性の確保、相談体制の確立をしなければいけないと思う。

委員 日本は精神障害者の入院者が30万人以上おり、諸外国と比べても非常に多い。そのため地域移行、地域定着に力を入れられているのだと思う。ただ、精神病院などが力を入れて地域移行をしようとしても、受け皿がない。そこをどうするか考えなければいけない。また、グループホーム等も含め、地域で支える体制を作り、地域定着を図ることが大きな課題ではないか。

委員 この問題は、病院としても重要な事だと理解し取組んでおり、実際に退院される方も増えている。長期入院されていた方が取組みにより退院したケースもある。地域移行、地域定着といった障害福祉サービスを利用する形ではないが、積極的に取組んでいる。ただ、受け皿については、まだ十分とはいえず、地域生活部会でも議論されている事だと思うので、今後も引き続き課題として取組んでいきたい。

会長 部会員名簿（案）については、これでよろしいでしょうか。

委員 この構成で、家族会や当事者の意見や気持ちを吸い上げ、部会を展開していく事ができるというのであれば良い。

事務局 各部会の今年度のテーマを検討し、この部会員構成を提案させていただいた。家族会や当事者の方のご意見には、部会の場に限らず、自立支援協議会を含め、常に耳を傾けている。いただいたご意見を踏まえ、部会を展開していくことも考えているので、ご理解いただきたい。

会 長 他にご意見いかがでしょうか。部会員名簿（案）に意義がなければ、この場でご承認いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委 員 異議なし

会 長 ありがとうございます。それでは、今年度はこちらの体制で検討を進めさせていただきます。

議題（２）各部会の検討課題とスケジュールについて

事 務 局 資料２－１及び計画概要版により今年度の地域生活部会の検討内容、目標について説明

委 員 地域生活支援拠点について、西三河南部西圏域の各市が集まって検討する場はあるのか。

事 務 局 圏域各市が集まる圏域会議の場等で、検討していくことになると思う。

委 員 まもなく１８歳を迎える障害児に関する、問題のあるケースがあり、そのような障害児と障害者の狭間にあるようなケースも各部会で検討できると良い。

委 員 精神障害者の地域移行はなかなか難しい。まだ地域生活支援拠点が整備されていない中で、今ある社会資源をどのように活用し、地域移行を進めていくか検討していただきたい。

会 長 他にご意見いかがでしょうか。
では続いて就労支援部会について事務局より説明をお願いします。

事 務 局 資料２－２及び計画概要版により今年度の就労支援部会の検討内容、目標について説明

委員 職場定着を目標とした内容でセミナーを開催するとのことだが、安城特別支援学校も定着率が良いとは言えないので、本校卒業生もターゲットにさせていただいて、支援してけると良いと思う。

委員 ひいらぎ特別支援学校は、今年度の卒業生に就職対象の生徒はいないが、2年生に就職を目指している生徒がいるので、この部会での検討事項や情報を進路指導に活かす事ができたら良いと思う。

委員 今までは、法定雇用率の拡大など、障害のある方の就職者を増やしていこうと国は施策を打っていたが、今は職場定着が課題となってきており、そこに力を入れている。この部会でも、職場定着に着目し進めていくということなので、良い結果を出すことができればと思う。

委員 企業で働いていた立場でいうと、障害者の職場定着は、まだまだ問題が多いと思う。企業側の障害者に対する理解不足や、ノウハウを持った人材の不足が、障害者雇用や職場定着の支障になっているのではないかと感じる。

委員 職場定着をテーマとすると、かなり広い範囲の企業が対象になると思う。対象の絞込みをどうするか、検討の必要がある。

会長 他にご意見いかがでしょうか。

では、続いて相談支援部会、事例検討研修会、全体のスケジュールについて事務局より説明願います。

事務局 資料2-3により今年度の相談支援部会及び事例検討研修会の検討内容、目標について説明するとともに、資料2-4により協議会と各部会の開催スケジュール（案）について説明

委員 昨年度までは地域生活部会に参加していたが、今年度は相談支援部会に参加する事となった。わからない事が多いが、部会での話をしっかりと引き上げて、育成会の会議に諮っていきたい。今、どの「親の会」でも会員が増えていかない事が問題になっている。特に、小さな子を持つ若い親の入会が少ない。若い親の声や悩みを吸い上げる事ができ、部会に親の会の意見として

提案する事ができるようになっていくと良い。そのような問題等も部会で検討していけると良いと思う。

会 長 それぞれの部会で課題を検討し、協議会で活動状況を報告してもらうことで、課題の認識や情報の共有を図っている。率直な意見をどんどん出して欲しい。今、各部会での検討課題を出してもらったが、これに付随する問題は多々あるので、部会の中で積極的に検討を進めて欲しい。

委 員 抽象的な話しになってしまうが、障害のある人もない人も、皆が幸せになるような社会になって欲しいと思って、いつも活動を行っている。

会 長 計画概要版の2ページに、「障害と障害のある人への理解」として「障害のある人にとってのあらゆる障壁を取り除くための取組みを進めます。」とある。障害の有無に関わらず地域で普通の暮らしができる社会をつくるため、いろいろな立場からいろいろな意見を出して欲しい。

委 員 相談支援部会は、第1回目の協議会から設置され、様々な課題を解決してきたが、まだまだ課題は山積している。専門的なアドバイスや、垣根を越えた協力をいただき、ここまで進んできた。目の前の課題への対応と先を見据えた対応の2つを同時に検討していかなければいけない。今年度の相談支援部会も充実した内容で進んでいく事を期待している。

会 長 他にご意見はありませんか。
それでは、福祉健康部長から一言お願いします。

福祉健康部長 長時間ありがとうございました。この協議会は、いろいろな団体の方にご参加いただいております。行政の考え方、視点だけでは偏った部分や届かない部分があるかと思えます。そういった中、皆様から様々なご意見をいただけるのは、大変貴重な機会であり、いい協議会だと考えております。

また、第4期刈谷市障害福祉計画が今年度からスタートし、目標が達成できるように頑張っていきたいと考えております。皆様からのご意見を参考に、反映させていただきながら、目標を達成していきたいと思っておりますので、これからもご協力をよろしくお願いいたします。

会 長 ありがとうございます。事務局から何かありますか。

事 務 局 会議終了後、該当団体の方へ、刈谷市障害者自立支援協議会の部会員の推薦についての依頼文書をお配りさせていただきます。今年度各部会でご協議いただく方のご推薦を、5月7日（木）までをお願いいたします。

会 長 他に、委員の皆様からご意見等ございますか。

委 員 昨年度、在学中の生徒で非常に困難なケースがあった。障害児の相談はひかりのかけ橋が行っており、大南相談員が1人で対応している。1人で解決できる問題ではないので、とても心配している。早急に考えていただきたい問題だと思う。

次に、相談支援部会についてお聞きしたい。相談支援部会の検討事項として、事例検討研修会の課題検討とあるが、この部会は、相談支援の仕組みや体制を検討、解決する場であって、個別のケースを解決する場ではないという認識でいいか。

事 務 局 相談支援部会は相談支援の仕組みや体制を検討、解決する場である。その検討事項の一つとして、事例検討研修会で出た課題を解決する場としての役割を持つこととしている。個別のケースを解決するケース会議ではない。

委 員 相談支援部会は年4回の開催予定となっている。緊急性のある問題が発生した時に、いち早く対応できる仕組み、支援員を招集できるような仕組みがあると良いと思う。

委 員 緊急対応という事になると、相談支援部会の中では動く事ができず、個別に行っているというのが実態で、市内4つの相談支援事業所、関係機関、市役所などで対応している状況である。組織的に対応できるような体制ができるといい。また、子ども部会のような部会を設置して、子どもの福祉、相談支援体制などの課題を検討したいと思っている。

会 長 他によろしいですか。では、以上をもちまして、第23回刈谷市障害者自立支援協議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。